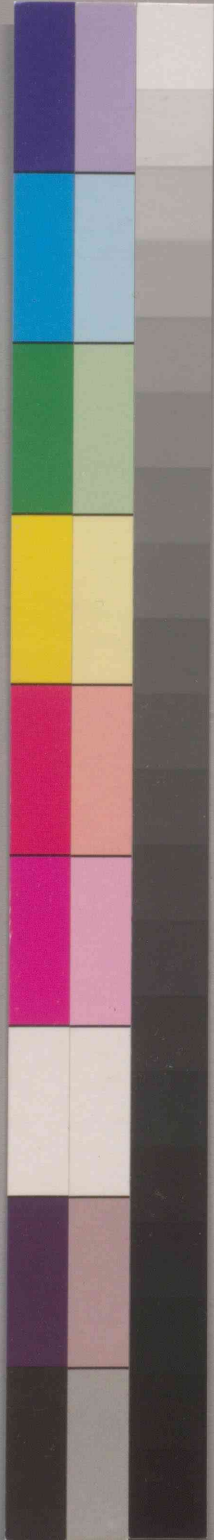


病
中須佐美
在禁俳諧書
上近衛公書

1073
\$30
(4)

198222 群馬県立
図書館



第一集

甘雨亭叢書別集序

安中板名戈拜頌

K093
#30
(41)



甘雨亭叢書別集序



亡友堀田益堂。天資英敏。頗好文學。與余為莫逆之友。如化乙己。余叢書第一集成。益堂見之曰。予夙有志于斯矣。既輯錄一百餘卷。名曰明遠館叢書。今子書已成。則無復須予之舉。乃舉而附之於余。余嘉其虛懷無我。謂之曰。國家有用之書。以國字

記之者極多。君盍輯而刻之。益堂首肯之。於是。余舉所藏國字書數十種以酬之。無幾。益堂即世。其舉不果。豈不可惜哉。頃者余錄叢書中。官不允刊刻者數十部。名曰叢書外集。又續而輯其係國字者。名曰叢書別集。嗚呼。國字書之多。汗牛充棟。最難取捨。余之謏陋。何以堪之。為之慨歎者久之。益堂亦當拊膺于地下矣。

嘉永六年癸丑重三

節山 板倉勝明識



臣岡村政德
謹書

甘雨亭叢書別集

第一集

病中須佐美 一卷

上迄衛公書 一卷

子姪禁俳諧書 一卷

日本養子說 一卷

非火葬論 一卷

父兄訓 一卷

古學先生和歌集 一卷

蕃山先生和歌 一卷 ○ 附保侶籠之圖

飛驒山 一卷

觀放生會記 一卷

檜垣寺古瓦記 一卷

人名考 一卷

准后准三后考 一卷

櫻之辨 一卷

櫻品 一卷

忠士筆記 一卷 ○ 附鳩巢與白石論土屋主稅所
置

湘雲瓚語附錄 一卷

病中次佐翁

病中須佐美

室直清 著

昔漢の文帝露臺を作らんとて匠を奪ひ其價を以て
 五ひり一萬百金を考へてを奏しそれ百金を中民十家の産
 かり吾今甚きを考へて十家の産を費せしむるは
 了終う此露臺をたつたむひりとなり其事今も青史を照
 一子歳の皇族とありあつた今の大君御代をあらわし初先
 より聊まき色の御好おひりたり御身の宝を重んじむるは
 物とて華をとりて天下の為財を惜みは漢文景子

且とてハ我々ハアツたに近年米價賤しく下部ハ
凍餒の民多く幸ひ菜色を免るゝとてハ昔年亦米
價あまりに御一々御恩を賜ふ群臣其禄を以り
木服以下の諸費を以て賤乏して用てハ困窮する
のよしを聞きて頻りに賑恤の御政ありとてハ昔より大
久しく是れ自世の風俗驕惰を御りけりハ昔ハ
唯奢侈を好む富商大賈時勢を乘りて貨利
の權を擅するに諸の物價亦高きなりハ米價
は俄に御一々御恩を以て諸價を降しとてハ又ハ

先一今年より徳素の令御定めはるる御恩を頌す
よとて去年徭月の末に先立有司令て府庫の賤を察
し先巨萬の金を散りて御禄の甚なりけりハ御恩
府史胥徒の御一々御恩を以て御事といふ今
より後ハ御恩貸を以て面々自新して身と備先公を
御一々御恩を以て御恩を以て御恩を以て御恩を以て
御一々御恩を以て御恩を以て御恩を以て御恩を以て
の志より御一々御恩を以て御恩を以て御恩を以て御恩を以て
御一々御恩を以て御恩を以て御恩を以て御恩を以て御恩を以て

於此以去々々已を省々々々酒色を少々々々於此其の
 み好く身をおもひて上の御恩をさぐりてするまじり
 人々々々々々人々々々々々禽獸を以て於此りぬて一
 つに事なす々々近年士の風儀日々敗々廉耻のあつら
 々々々々々々々々々々々々々々々々人々々々々々定々々々
 日ハ老のひるむる々々々々其事を何々々々深々々々々々徒々々
 々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々此々の事々々利
 々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々
 世を戒る々々々々又世々々々々々其評人の々々々々々々

樓後々々々々母々々々々々賢々々々々々妻々々々々々姑の々々々々々々
 日ハ何々々々々々編々々々々々何々々々々々享保辛酉年正月十三日
 鳩巢老人後臺の草の庵々々々々

病中頌佐美終

公也壽公書

上近衛公書

柴野邦彦 著

近衛殿の内から紀伊守源重敏、幕府へ使入り
 され奉り邦彦ハ行りやんくふ水又と存り音あ
 ハさくふ水て其全福くく候と云ふ崇高の位
 位を去水より下問ノ耻をわたり母のくきけん是
 こそ芻蕘ノ同くやとく又吐握のけ勢をやくき涙を
 ころりゆきふり邦彦御子の身とて端接の御位
 第のくく小物と云ふ候く水よりくふりて

狄仁傑、元行仲と景雲中の物と云々たるものあり、又ハ
厚き仰の素き中事比との事あり、少き事あるものあり、書
はけり、まうらひ、幸ぬ芽曝の御と云々、たうらうと云々、
あや、あやと云々、

人とはくま、好まふ公家、又送を以て、武家ハ武功を以
て、まうらう勿備のけり、い、就中大臣、抄取のけり、と云々
むり、け徳義を以て、まうらひ、と云々、朝家のけり、と云々
く、ま、ま、ま、ま、ま、ま、春秋公羊傳、孔子色而
立於朝、則人莫敢過、而致難於其君、考と云、け文の執柄
ニ公、と云々、け方徳を脩を義と云、と云々、と云々、君乃

俗のけり、と云々、ハ、けり、けり、叛臣、逆臣、百善、貌、貌の兵を平
けり、と云々、其人を踏、踏、君、と云々、弑逆、無れ、の、と云々、ハ、か
けり、と云々、の、と云々、其例、和漢、けり、と云々、けり、中、と云々、漢
の代、けり、ハ、汲黯、の忠直、と云々、ハ、呉楚七國の謀、及、けり、
けり、唐の代、けり、ハ、杜黃裳の清、及、けり、ハ、李師古ハ身
と云々、和、けり、と云々、ま、朝、けり、ハ、九、門、督、光、頼、卿、の、存、
けり、と云々、平治の、帝、ハ、けり、あ、と云々、と云々、と云々、と云々、
汲黯、杜黃裳、光、頼、けり、と云々、の、と云々、武、畧、智、勇、鬼、谷、黃、石、と云々

秘制の由ききくちありて又練誦る若秦楚燕趙の兵持
 ころりたり或ハ病ゆけり或ハ文墨の中をたしむる
 ともありて人の中をたしむ一筋の忠直法養ゆかり
 うは暴逆叛乱の革衛青霍去病をんとの智勇並備
 うる武將をとりて彼の人をたしむるは
 徳義のさやとて廟堂のよきとて衝を千里折る
 笏を端なく天下を泰山の安んずるは是の事をや
 たり此れハ今抄家大臣の身ゆき 君の御ありゆき
 ちをりては只身ゆき 義色はゆき水みりゆき

抄るる千糸の多きとてハ重なりてゆき
 けりては忠節は第一とてゆき打物とて
 了経謀秘策を運りて 朝家のゆきりて仕んる事ハ
 武臣のゆきとて業とてゆき

君子所貴乎道者三。動容貌。斯遠暴慢矣。正顏色。斯近
 信矣。出辭氣。斯遠鄙倍矣。籩豆之事。有司存。曾子
 のまひてをてり抄家大臣のゆき職とてをりて是殿
 舎のゆきとて秘製のま目がゆきとてゆきの事ハ有司存
 とて法司の官人ゆきのゆきの残業とてゆきとてゆき

子姪林不化社書

上迄衛公書終

甘雨亭書別錄

卷三

清涼院

成仁親王

棟正員人

中興宮

宗真盛人

上杉憲忠

長尾昌賢

分倍地

滿則人

則重人

則尚人

廿四時書別集

ほけの家をぬくを以箕裘まつつて羊を
けつむのちあやけの光を文字をりて
事へのせんをりて下あきまのけをりて
かへてこれぬのせんをりて軒か
好むく万のとえんをりてけりて花さく春の日も
もあけ月もま秋の夜もまをりて
す秋はまをりて事あけり後ひあけり月日の流る
世もまをりて人のるをぬれぬ事人の世も
ひとまをりての晴間まをりて身をほむ

ハ雅俗の隔をりて出谷遷喬のあけりて
〜〜〜此事をりて世も里をりてあけりて
あけりてくわりの人の崎陽に流寓せりて
とらん〜〜あやも邪風をりて世も山樹の
きり〜〜の振盪の菅屋のまをりて風雅をりて短冊
あけり〜〜の〜〜奪句をりて神の御前の
柳葉のあけり〜〜た〜〜或ハ雅〜〜某〜
の年賀返福をりて詩秋を書き〜〜
なうに秋もまをりての〜〜神の御まをり

廿四時書別集

子姪禁俳諧書

何を以ててよきものかははははは今ハ事をするに知れ
是れ名をぬきこころをわきまにすまはしむる事なり
り世古の事々々々々今先かき事々々々々々々々々々々々
さく連歌なりなり事ハあはれはくさくさくさくさくさく
此道の考より花鳥のそひひさすさすさすさすさすさす
ひひひひひひひひひひひひひひひひひひひひひひひひ
只一時の哉や々々其ささささ今のみくわくわくわくわく
ささささささささささささささささささささささささ
小侍保姫の春まきささ居尻ささささささささささささ

ささささ秋連歌ぬきさささ其入乃持のす矢ささささ
ささ利口ささささささ連歌のささささささささささ今
はささささささささささささ無下の流俗な道のさささ
さささささささささささささささささささささささ
風流の事々々々俗ささささ風物さささ文字のさささ
さささささささささ用詩々六義と事のささささささ
ささささささささささささ風雅頌ささささささ比賦興
す風さささささささささささささささささささささ
と此内の一科のささ三義を何れさささあれ具さささ

群馬県立図書館



0295132-5